

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和2年度終了時点(令和3年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和2年度より、基本計画に基づき、「まちの資源を活かした、誰もが主役となれるまち 公園都市（パークタウン）周南」を中心市街地におけるまちづくりの理念に掲げ、「賑わい」と「楽しさ」のあるまちづくり」及び「利便性」と「快適さ」のあるまちづくり」の基本方針のもと、基本計画に掲げる各事業を推進している。

令和2年度は、徳山駅前地区市街地再開発組合による徳山駅前地区第一種市街地再開発事業について、2月に権利変換計画が山口県から認可され、3月から解体作業に着手するなど、令和5年の開業に向けて本格的に進み始めた。

そのような中、再開発事業に併せ、周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるため、中心市街地活性化協議会に設置したゾーニング&マグネット部会において、商店街に魅力的な店舗や必要な機能の配置の検討を行った。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント事業が軒並み中止になっている中、徳山あちこちマルシェについては、規模を縮小して開催したほか、イベント実施主体がコロナ対策ガイドラインを作成して、安心安全なマルシェ開催に努めるとともに、まちづくりのプレーヤーが多数存在するこのまちの特徴を活かし、複数のイベントを同時開催することにより、「密」を避け、商店街等への回遊を促すことができた。

中心市街地活性化協議会では、駅周辺の賑わいを商店街等中心市街地全体に波及させるため、徳山駅前賑わい交流施設の指定管理者（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）や、まちづくり会社、徳山商工会議所、JR西日本、市をはじめとする関係機関・企業やイベント実施団体等で「街と駅との連携会議」を月に2回のペースで開催しており、イベント等の中心市街地に関する情報共有や検討を行っている。引き続き、駅周辺の賑わいを中心市街地全体に波及させていくために官民連携して中心市街地活性化を進めていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度12月31日)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	8,866	8,773				
人口増減数	-	△93				
自然増減数	-	-				
社会増減数	-	-				
転入者数	-	-				

(2) 地価

		令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
住宅地	児玉町3丁目	74,600	76,100				
商業地	御幸通2丁目15番	131,000	131,000				
	桜馬場通1丁目13番外	77,600	77,600				
	平和通1丁目19番	112,000	111,000				
	本町1丁目20番	72,200	72,200				
	柳町13番2外	51,100	51,100				

2. 令和2年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地活性化協議会では、協議会内に設置したタウンマネジメント会議を中心に、行政と民間が中心市街地の情報や課題を共有・連携しながら計画事業の推進に取り組んできた。

令和2年度は、徳山駅前地区第一種市街地再開発事業の解体工事が始まったことなどから、活性化への期待感の高まりが感じられる。「ゾーニング&マグネット会議」など、再開発事業を起点とした周辺の賑わいに向けた新しい取組も始めており、今後、新たな事業の実施を期待している。

基本計画に掲げた事業は、概ね順調に進捗していると評価しているが、数値目標の達成に向けては、さらに行政と民間が一体となって推進していく必要があり、協議会としても尽力したいと考えている。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
みんなが行きたくなる、魅力あるモノ・コトがあふれるまち	物販・サービス業等新規出店数(件)	62 (H26～H30)	83 (R2～R6)	13 (R2)	B	-	①
	中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数(人/年)	936,940 (H30)	1,115,150 (R6)	516,394 (R2)	C	-	①
みんなが快適に過ごせる、歩きたくなるまち	平日歩行者等通行量(人/日)	32,937 (H30)	38,660 (R6)	28,217 (R2)	C	-	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「物販・サービス業等新規出店数(件)」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、出店に対する機運が低下しやすい状況の中、基準値62件(1年あたり12.4件)に対し、令和2年度は13件の出店があり、基準値を超えることができた。再開発事業を見越した出店の動きも出てきており、今後、更に出店の動きが活発になると考える。

「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数(人/年)」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊客が落ち込んだほか、文化・観光施設についても、一時休館を余儀なくされたため、来館者数が減少している。令和3年度は、新しい取組として、動物園から中心市街地内の回遊性向上のためのラリーイベント(検討中)など、文化・観光施設との連携を行い、来館者数等の向上による目標数値の達成を目指す。

「平日歩行者等通行量(人/日)」についても、新型コロナウイルス感染症の影響により、基準値32,937人に対し、28,217人と減少した。令和5年度の完了を目指す再開発事業に向けて、再開発施設だけでなく、その周辺への回遊性の向上にもつながるよう、商店街に魅力的な店舗や必要な機能の配置の検討を行っていく。

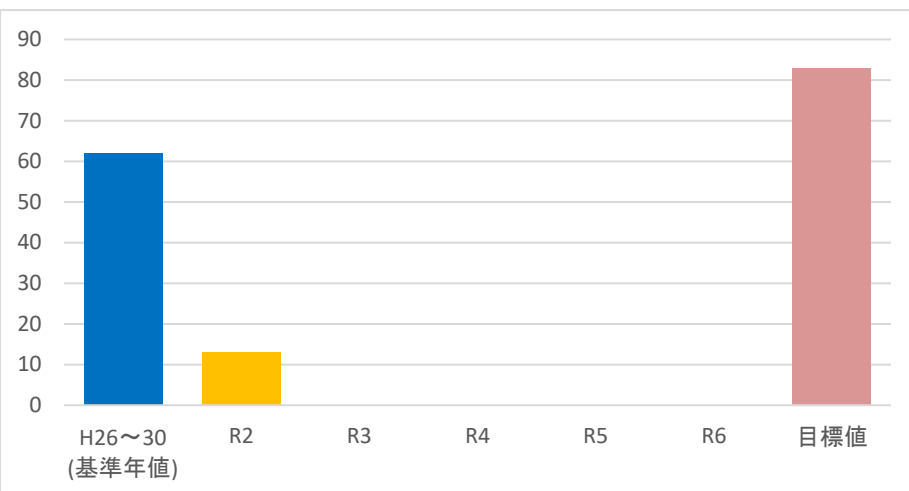
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「物販・サービス業等新規出店数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 81～P. 84 参照

●調査結果と分析



年	(件)
H26~30	62
H30	(基準年値)
R2	13
R3	
R4	
R5	
R6	83
	(目標値)

※調査方法：毎年行っている中心市街地の商店街等の実態調査（営業店舗数、空き店舗数、業種業態割合等）をもとに調査を行う。

※調査月：毎年10月～12月頃

※調査主体：市

※調査対象：中心商店街等

〈分析内容〉

新規出店13件のうち、3件は、徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に伴う移転による出店となる。また、テナントミックス推進事業による補助を行った新規出店1件は、再開発事業の動きを見越した出店であり、既に、再開発事業による周辺商店街への好影響が起きていると考える。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業（徳山駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和4年度【実施中】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）【国土交通省】（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値10件 令和5年度完了予定。 令和2年度は、地権者・テナント全員の同意をとり、権利変換計画が認可。3月より解体工事に着手している。
事業の今後につ	令和5年度完了に向けて整備を進めていくほか、再開発事

いて	業完了に先立ち、再開発事業による周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるための検討を中心市街地活性化協議会と連携して行っていく。
----	----------------------------------------------------------------------------

②. 徳山あちこちマルシェ（徳山あちこちマルシェ実行委員会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	徳山駅南北自由通路から商店街一帯を会場とした回遊性のあるマルシェイベントの実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値 3 件（②+③）</p> <p>令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント事業が軒並み中止になっている中、徳山あちこちマルシェについては、規模を縮小して 2 回開催（8 月 8 日参加者 1000 人、10 月 19 日参加者 1000 人）したほか、イベント実施主体がコロナ対策ガイドラインを作成し、安心安全なマルシェ開催に努めるとともに、まちづくりのプレーヤーが多数存在するこのまちの特徴を活かし、複数のイベントを同時開催するにより、「密」を避け、商店街等への回遊を促すことができた。</p> <p>また、商店街エリア外ではあるが、令和 2 年度は、マルシェ出店者が中心市街地内に店舗を構えたほか、マルシェの出店者が徳山駅北口駅前広場で自らマルシェイベントを実施するなど、当該イベントによる波及効果が生まれている。</p>
事業の今後について	今後も継続して実施することにより、中心市街地内の店舗の魅力の再発見や中心市街地への出店のきっかけとなるよう努めていく。

③. つながる「場面」づくり ～SLS(Super Local Site)～ （徳山あちこちマルシェ実行委員会、徳山商工会議所、ナシブドウグミ）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	統一的なマルシェの空間をつくるための、出店用のセットを作成・貸出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値 3 件（②+③）</p> <p>徳山あちこちマルシェをはじめとする各種イベントにて、出店用セットを貸し出すことにより、同じデザインの店舗が並び、統一された空間のプロデュースを行うことができ、イベントの価値の向上が図られた。</p>

事業の今後について	SNSでの発信等により、認知度の向上を図る。
-----------	------------------------

④. テナントミックス推進事業（徳山商工会議所、株式会社まちあい徳山、周南市）

事業実施期間	平成13年度～【実施中】
事業概要	中心商店街において新規出店する民間事業者に対して、店舗改装費、広報宣伝費を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年度は、4件の採択（うち物販・サービス業1件）を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、出店に対する機運が低下しやすい状況の中、再開発事業を見越した出店の動きも出てきており、出店に関する相談も定期的にある状況である。
事業の今後について	令和3年度からは、特例措置として、重点出店業種に対しては補助限度額を100万円から最高200万円とすることにより、商店街への魅力的な店舗や必要な機能の誘導を図る。

⑤. 閉店・物件活用相談サポート事業（株式会社まちあい徳山、周南市街地活性化協議会）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	商店の閉店や、閉店後の物件の活用に関する相談を受ける窓口の設置
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値5件 株式会社まちあい徳山が、閉店に関する相談を受け、サポートした結果、令和2年度は、個人店舗1件を株式会社に譲渡する事業承継を行うことができた。
事業の今後について	引き続き、事業を継続し、店舗の有効活用や新陳代謝を進めていく。

⑥. 徳山駅前市街地再開発事業実施に伴う周辺エリアの回遊性創造プロジェクト（中心市街地活性化協議会、株式会社まちあい徳山）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に併せ、中心市街地内の不足業種の洗い出しや、回遊を促すためのマグネットとなるための店舗の抽出、再開発を行うことにより、再開発施設

	の周辺の商店街への回遊性の向上を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業【経済産業省】令和2年度～令和6年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年度は、中小機構のサポートを受けながら、中心市街地活性化協議会に設置したゾーニング&マグネット部会において、商店街への魅力的な店舗や必要な機能の配置の検討を行った。この検討に基づき、テナントミックス推進事業について、令和3年度の特例措置として、重点出店業種に対し、補助限度額を100万円から最高200万円とすることとした。 また、再開発施設の周辺の商店街のひとつである一番街について、再整備構想のとりまとめを行った。これにより、一番街の再整備の方向性について共有し、構想実現のための体制作りや再開発前に実施可能な事業について具体化を目指す。
事業の今後について	令和3年度からは、一番街の再整備構想の具現化に向けて検討を進めていく。

⑦. 空き店舗見学ツアー事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	空き店舗への新規出店を促すために、空き店舗見学ツアーを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値3件 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見つつ、開催を目指す。

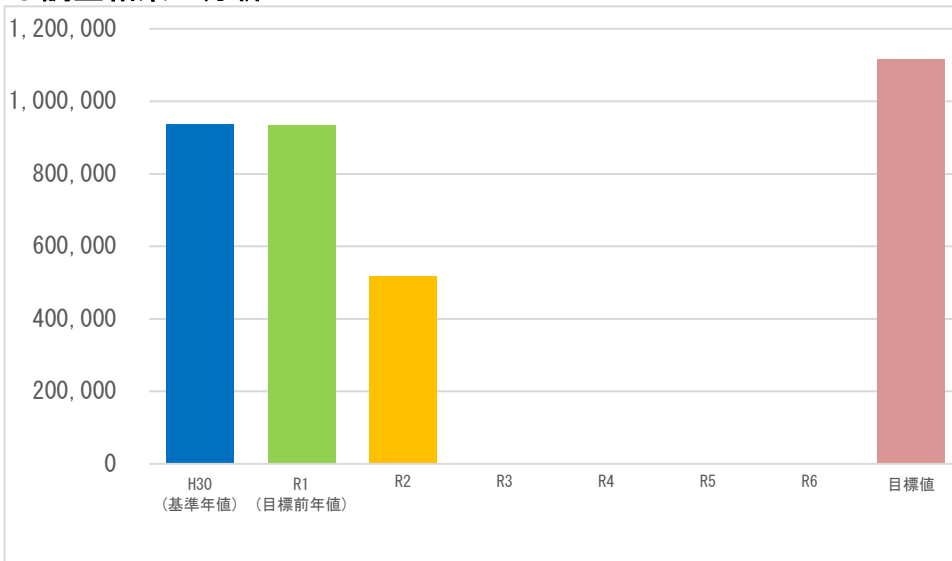
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、出店に対する機運が低下しやすい状況の中、基準値62件（1年あたり12.4件）に対し、13件の出店があり、基準値を超えることができた。再開発事業を見越した出店の動きも出てきており、今後、更に動きが活発になると考える。

今後も、テナントミックス推進事業等による出店者の掘り起こしを進めるなど、官民連携して計画を推進し、出店数の増加に努めていく。

(2)「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 85～P. 88 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	936,940 (基準年値)
R1	933,153 (計画前年値)
R2	516,394
R3	
R4	
R5	
R6	1,115,150 (目標値)

※調査方法：【動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館】

各施設が公表している年間入館者数（4月～翌年3月）を調査

【宿泊者数】

毎年行っている観光動態調査にて、中心市街地エリア内の年間（1月～12月）観光宿泊者数を調査

※調査月：【動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館】

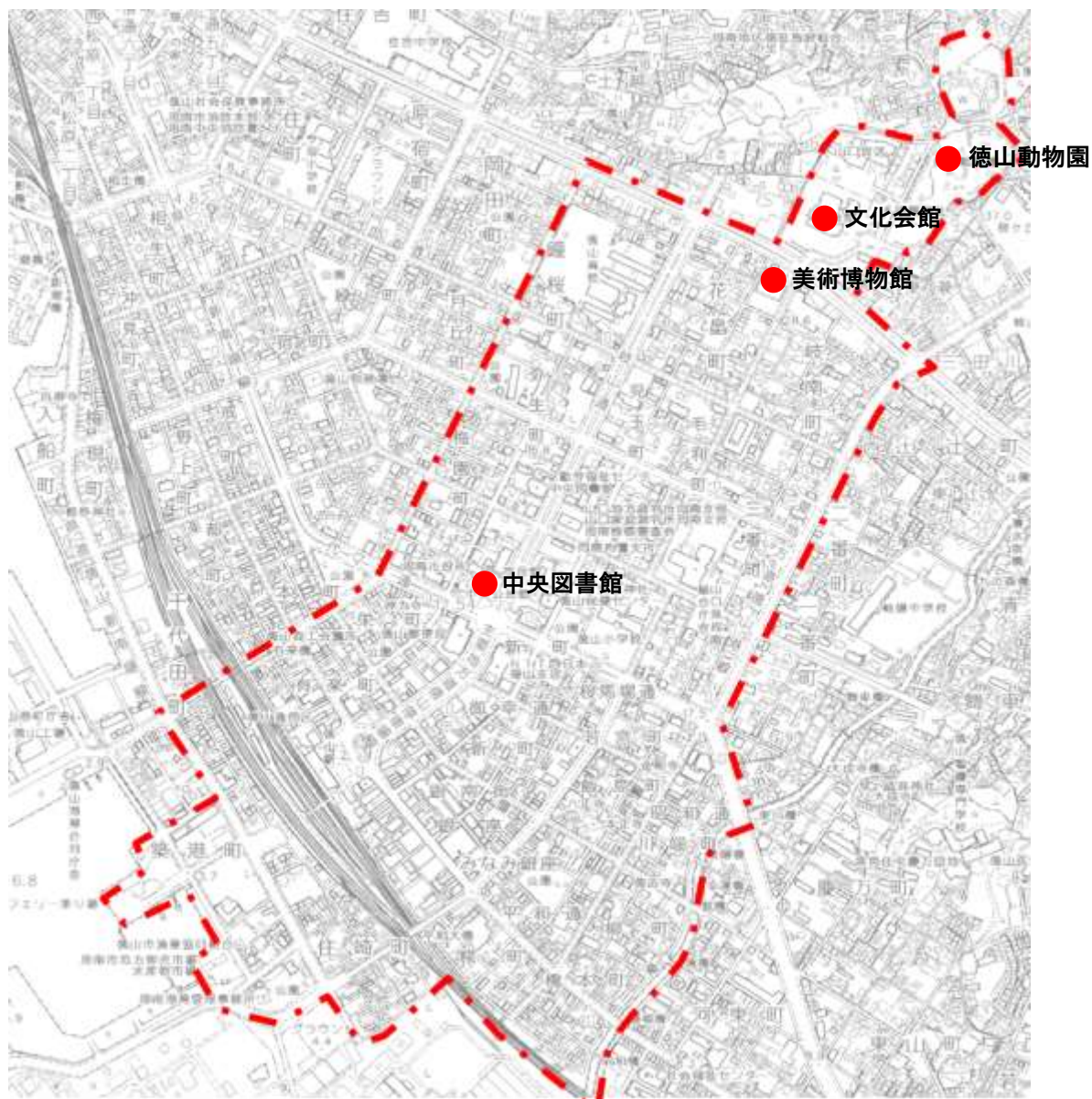
各年4月～3月

【宿泊者数】

各年1月～12月

※調査主体：市

※調査対象：動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館、中心市街地エリア内宿泊施設



	R1 (計画前年度)	R2	R3	R4	R5	R6
徳山動物園	268,607	195,757				
文化会館	266,557	56,923				
美術博物館	108,653	27,189				
中央図書館	119,348	102,727				
宿泊者	169,988	133,798				
合計	933,153	516,394				

〈分析内容〉

各施設とも、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時休館を余儀なくされたことなどから、基準値を下回る結果となった。宿泊者についても、計画前年度から下回る結果となった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業（徳山駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和4年度【実施中】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）【国土交通省】（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値25,550人 令和5年度完了予定。 令和2年度は、地権者・テナント全員の同意をとり、権利変換計画が認可。3月より解体工事に着手している。
事業の今後について	令和5年度完了に向けて整備を進めていく。

②. 徳山動物園リニューアル事業（アジアの熱帯雨林ゾーン）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【実施中】
事業概要	徳山動物園内に、アジアの熱帯雨林ゾーンを設け、スリ兰卡ゾウやマレーグマ、熱帯雨林の鳥類等の動物を観覧できるゾーンを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園・緑地等事業）【国土交通省】（平成27年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値34,562人 令和3年度完了予定。令和2年度は、マレーグマ舎及び爬虫類舎の整備が完了したほか、ゾウ飼育場（ゾウ舎は平成31年度に完了）、ヤマアラシ飼育場、コツメカワウソ飼育場及び園路・植栽等の周辺整備に着手した。
事業の今後について	令和3年度完了に向けて整備を進めていく。

③. 児玉源太郎メモリアル事業

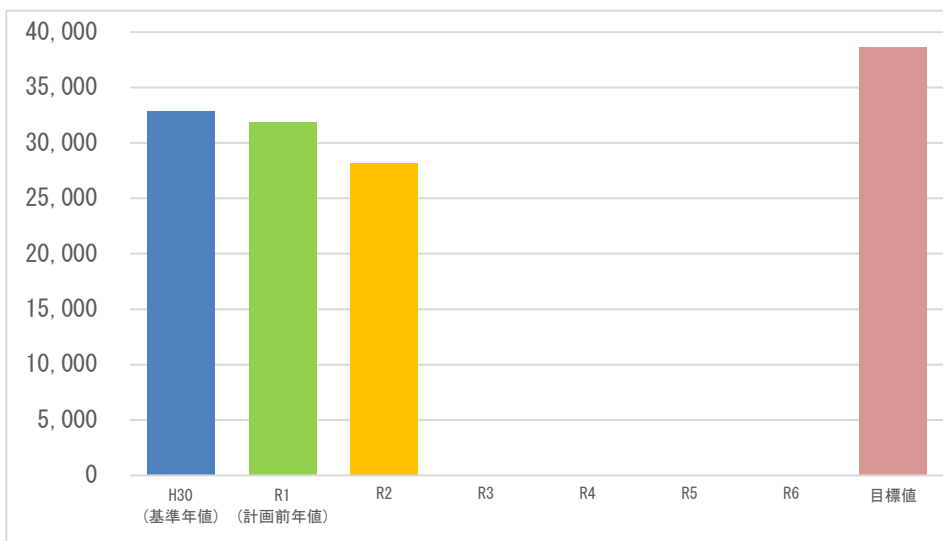
事業実施期間	令和4年度【未】
事業概要	中央図書館にて、児玉源太郎の功績の紹介や、児玉源太郎にまつわる品々を展示するコーナーを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値7,688人 令和4年度実施予定。
事業の今後について	令和4年度実施予定。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊客が落ち込んだほか、文化・観光施設についても、一時休館を余儀なくされたため、来館者数が減少している。令和3年度は、新しい取組として、動物園から中心市街地内の回遊性向上のためのラリーイベント（検討中）など、文化・観光施設との連携を行い、来館者数等の向上による目標数値の達成を目指す。

(3) 「平日歩行者等通行量」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 89～P. 94 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	32,937 (基準年値)
R1	31,881 (計画前年値)
R2	28,217
R3	
R4	
R5	
R6	38,660 (目標値)

※調査方法： 平日1日間の午前10時～午後7時までの通行量を測定（悪天候の場合等には予備日にて実施）

※調査月： 各年10月～12月

※調査主体： 市

※調査対象： 中心市街地エリア内計15カ所における自転車及び歩行者の通行量



(単位：人)

	R1 (計画前年度)	R2	R3	R4	R5	R6
A 広島銀行前	1,922	1,675				
B フタバフルーツパーラー前	4,098	3,866				
C 藤本たばこ店前	2,929	2,663				
D 有吉有文堂印房前	1,142	1,089				
E 石田屋ビル前(新町)	1,064	961				
F ダイヤビル前	1,462	1,216				
G エムラ前	1,753	1,778				
H 河村玉煎堂前	727	735				
I セブネス銀座南	2,330	1,931				
J セブネス銀座東	1,161	1,109				
K みずほ銀行・大和証券前	4,974	4,314				
L 伊藤ビル前東	1,353	1,156				
M 沖ビル前	1,166	1,084				
N グランドール徳山前(岐山通)	1,474	1,699				
O 南北自由通路(南側)	4,326	2,941				
合計	31,881	28,217				

〈分析内容〉

各地点とも、新型コロナウイルス感染症の影響による、移動や外出自粛の影響で、前年よりも歩行者等通行量が概ね減少している。特に、徳山駅の改札口そばである「地点O 南北自由通路(南側)」については、駅利用者の低下から、大幅に通行量が減少した。

「地点B フタバフルーツパーラー前」「地点K みずほ銀行・大和証券前」「地点I セブネス銀座南」については、再開発事業により解体が始まったエリアの周辺であり、再開発エリア内の店舗が移転等によりなくなったために、付近の回遊が減少したと考える。

一方で、「地点G エムラ前」「地点H 河村玉煎堂前」については、歩行者等通行量が微増となっている。これは、新型コロナウイルス感染拡大の影響下でも、中央街商店街や銀南街商店街が、独自でプレミアム商品券事業やイベント事業を行い、賑わいの創出を図ったためだと考える。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業(徳山駅前地区市街地再開発組合)

事業実施期間	平成30年度～令和4年度【実施中】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)【国土交通省】(令和2年度～令和4年度)

事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 5, 426人/日 令和5年度完了予定。 令和2年度は、地権者・テナント全員の同意をとり、権利変換計画が認可。3月より解体工事に着手している。
事業の今後について	令和5年度完了に向けて整備を進めていくほか、再開発事業完了に先立ち、再開発事業による周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるための検討を中心市街地活性化協議会と連携して行っていく。

②. 徳山駅南口広場整備事業（周南市）

事業実施期間	平成22年度～令和2年度【済】
事業概要	徳山駅南口駅前広場において、交通ターミナルの機能を向上させる整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業【国土交通省】（令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 221人/日 令和3年3月完了。
事業の今後について	南側の玄関口が整備されたことによって、街と港との連続性による回遊性の向上が見込まれるほか、周辺の都市開発が進むことが期待される。

③. 徳山駅前北口広場活用事業（周南市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	令和元年度に完成の徳山駅北口駅前広場について、イベント等に活用しやすくするために、利用の際のルール整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	駅前広場の設置及び管理に関する条例を制定し、施設を適正管理するとともに、使用許可の手続きを簡素化し、イベントを行いやすい環境の整備を目指す。令和2年度は、他の自治体の事例研究を行うとともに、条例素案を作成し、JR及び警察等と複数回協議した。
事業の今後について	引き続き、JRをはじめとする交通事業者や警察等と協議を行い、駅前広場の設置及び管理に関する条例の制定や施設利用者向けのガイドライン等の作成に努める。

④. 徳山駅前市街地再開発事業実施に伴う周辺エリアの回遊性創造プロジェクト（中心市街地活性化協議会、株式会社まちあい徳山）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に併せ、中心市街地内の不足業種の洗い出しや、回遊を促すためのマグネットとなるための店舗の抽出、再発見を行うことにより、再開発施設の周辺の商店街への回遊性の向上を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業【経済産業省】令和2年度～令和6年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年度は、中小機構のサポートを受けながら、中心市街地活性化協議会に設置したゾーニング&マグネット部会において、商店街への魅力的な店舗や必要な機能の配置の検討を行った。この検討に基づき、テナントミックス推進事業について、令和3年度の特例措置として、重点出店業種に対し、補助限度額を100万円から最高200万円とすることとした。 また、再開発施設の周辺の商店街のひとつである一番街について、再整備構想のとりまとめを行った。これにより、一番街の再整備の方向性について共有し、構想実現のための体制作りや再開発前に実施可能な事業について具体化を目指す。
事業の今後について	令和3年度からは、一番街の再整備構想の具現化に向けて検討を進めていく。

⑤. シビックプラットホーム活用事業（周南市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	市役所のシビックプラットホームを、市民の活動の場として活用する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値60人／日 当該事業に一番近い測定地点の通行量は、令和元年度の1,474人から令和2年度は1,699人となった。 マルシェイベントであるしゅうなんシビックマルシェが10月に実施されるなど、会議室としての利用のみでなく、中心市街地の賑わいの創出にも活用されている。
事業の今後について	令和3年度からは、フリーWi-Fiを使用可能とするなど、今後、Web会議等の活用などが期待される。

⑥. 商店街で育む子どもの可能性を伸ばす場作り事業（株式会社コミクリ）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	まちづくり会社や商店街と連携し、小学生の放課後や長期休暇などに、就業体験やIT学習のできる場を提供する。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 13人/日 当該事業に一番近い測定地点の通行量は、令和元年度の1,353人から令和2年度は1,156人となった。 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度は、商い体験は実施せず、オンラインでのITツールを活用した多様な学び体験とした。
事業の今後について	令和3年度については、地元団体との連携を検討していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和2年度は前年度の実績を下回る結果となったが、計画に掲げた事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能であると考えます。

今後は、令和5年度の完了を目指す再開発事業に向けて、再開発事業によって、再開発による施設だけでなく、その周辺への回遊性の向上にもつながるよう、商店街に魅力的な店舗や必要な機能の配置の検討を行っていく。

また、徳山駅前賑わい交流施設から生まれた賑わいを中心市街地全体へ波及させるために、指定管理者（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）と、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社、徳山商工会議所、JR西日本、市をはじめとする関係機関・企業や既存のイベント実施団体等による「街と駅との連携会議」を開催し、イベント等の協働実施や、情報共有等を行っている。今後も、新たなイベント等を行うまちづくりのプレーヤーの発掘・支援を行いながら、官民が連携してまちづくりを進めていく。